

朱書。唯今は福田市右衛門・原九郎三郎裁許仕候。入帳會所より渡置、拂切手會所印押申候。右之趣被仰出所也。

承應三年十二月廿九日 津田 玄蕃 奥村 因幡

水原清左衛門殿
村田 半助殿
有澤 孫作殿
山路九郎兵衛殿

二 會所御條目

隔日に會所相詰、用所無滞可勤之。但、急用有之時者、毎日寄合可申候。朝五つより出、晚は用所仕廻次第可罷歸事。
一、諸方上り金銀、并佐垣九右衛門・中川平右衛門・小幡七郎兵衛裁許之金銀入帳を勘定、會所之御印可押事。
朱書。諸方上り金銀指出に、會所印押申候。入之儀は、入立奉行極申候。役銀奉行は會所より入を立、拂方切手に會所印押申候。

一、右九右衛門・平右衛門・七郎兵衛并平田三郎右衛門・齋藤主馬裁許金銀拂方、請取人手形に裁許人加裏書、留帳に記、會所押切に對馬・因幡・民部・玄蕃印判を取、可相渡事。
朱書。唯今は拂方切手會所印押申候。年寄中印は無御座候。

一、絹布・料紙・蠟燭・武具・馬具、并桶・槍物屋・荷物包料炭薪等、入拂奉行人手前々々遂吟味、御印押可申事。
一、家具・肴・八百屋物・搗米・雜穀、納請取方遂吟味、入を立御印押可申事。
一、他國の荷物、先々奉行入迄送目録を添可遣事。
一、女中并細工之者・掃除坊主、扶持・切米・給銀遂吟味、受取可渡事。

朱書。唯今は會所支配不仕、夫々支配人御座候。
一、諸方奉行入より申越調物、念を入遂吟味、無滞様可相渡事。
一、小算用之者對上奉行慮外之躰有間敷候。諸事上奉行申渡候儀、違背仕間敷候。但、無理成儀申付、斷不聞入におしては、對馬・因幡・玄蕃・民部に可申聞事。

一、用所無之者、會所に參問敷候。但、用所相濟候は、早速可罷歸事。

右被仰出候通相違背間敷者也。

萬治二年六月初日 御印 今 枝 民 部 津 田 玄 蕃 奥 村 因 幡 前 田 對 馬

金 澤 會 所

三 會所御用勤方覺

會 所 勤 方 帳

一、會所御用、跡々御定之通裁許仕、諸事年寄中并御用人中指圖を以、相勤申候御事。

一、諸方より上り金・銀・錢、上人指出候添書等致吟味、留帳に記、會所印押切、夫々相渡候。御銀奉行受取切手に、右留帳見合、印押、入帳に記、役銀御奉行の相渡申候。右拂方之儀、過料銀・闕所銀・郡打銀は會所印押申候。役銀は、御普請於會所印押申候。與力明地銀者、役銀御奉行より御

土藏の上申候御事。

一、小拂所に金・銀・錢爲請申候儀、毎月諸方上り金銀高、大銀御奉行手前より承届、年寄中迄申達、御印之帳・切手を以、小拂御奉行受取申候御事。

朱書。元祿八年より、御印帳并出切手に、向後年寄中印判に而御銀申請候様被仰出候。

一、小拂御奉行拂方之儀、御作事方・御賄方其外諸職人手間料、并御調物諸事代銀渡候儀、請取人切手に夫々御奉行并裁許人裏書有之を見届、留帳に記、會所印押切、御用人添印有之を以、銀子爲受取申候。御調物品々、夫々御奉行に入帳に記、會所印押相渡申候。且又銀子請取候者可遂勘定類は、相渡候高小拂御奉行より入切手を出候に付、是又會所印押遣候事。

一、銚御褒美銀之事。

- 一・二番 銀子二枚充
- 三より五迄 金一兩充
- 六より七迄 銀一枚充
- 八より十迄 同三十目充